

22) 盲ろうになった経過別の外出の頻度について（1か月間）

表1-22 盲ろうになった経過別の外出の頻度

		1回以下	2回～3回	4回～5回	6回以上	計
幼児（0～5歳）	実数	3 (37.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	8 (100.0)
6歳以上になつて	実数	3 (60.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
はじめ聴覚に障害を	実数	7 (26.9)	11 (42.3)	4 (15.4)	4 (15.4)	26 (100.0)
はじめ視覚に障害を	実数	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
不 明	実数	9 (50.0)	6 (33.3)	2 (11.1)	1 (5.6)	18 (100.0)
計	実数	24 (38.7)	22 (35.5)	8 (12.9)	8 (12.9)	62 (100.0)

() 内は構成比 (%)

23) 性別における施設での訓練内容

表1-23 性別における施設での訓練内容

	男	女	計
日常生活の訓練・指導	21 (17.9)	9 (15.0)	30 (16.9)
コミュニケーションの訓練・指導	21 (17.9)	13 (21.7)	34 (19.2)
歩行訓練	6 (5.1)	1 (1.7)	7 (4.0)
作業訓練	29 (24.8)	18 (30.0)	47 (26.6)
職業準備訓練・職業訓練	6 (5.1)	1 (1.7)	7 (4.0)
レクリエーション活動	26 (22.2)	15 (25.0)	41 (23.2)
その他	8 (6.8)	3 (5.0)	11 (6.2)
計	117 (100.0)	60 (100.0)	177 (100.0)

() 内は構成比 (%)

施設内の訓練は、作業訓練が47名(26.6%)と多く、続いてレクリエーション活動が41名(23.2%)、コミュニケーション訓練が34名(19.2%)、日常生活訓練が30名(16.9%)となっていた。(重複回答)

24) 障害の程度別訓練内容

表1-24 障害の程度別訓練内容

	全盲 全ろう	弱視 全ろう	全盲 難聴	弱視 難聴	その他	計
日常生活の訓練 指導	15 (16.7)	8 (19.0)	3 (16.7)	2 (14.3)	2 (15.4)	30 (16.9)
コミュニケーション の訓練・指導	19 (21.1)	7 (16.7)	3 (16.7)	4 (28.6)	1 (7.7)	34 (19.2)
歩行訓練	3 (3.3)	1 (2.4)	1 (5.6)	1 (7.1)	1 (7.7)	7 (4.0)
作業訓練	24 (26.7)	14 (33.3)	4 (22.2)	3 (21.4)	2 (15.4)	47 (26.6)
職業準備訓練・職業 訓練	1 (1.1)	3 (7.1)	0 (0.0)	2 (14.3)	1 (7.7)	7 (4.0)
レクリエーション 活動	23 (25.6)	9 (21.4)	5 (27.8)	1 (7.1)	3 (23.1)	41 (23.2)
その他	5 (5.6)	0 (0.0)	2 (11.1)	1 (7.1)	3 (23.1)	11 (6.2)
計	90 (100.0)	42 (100.0)	18 (100.0)	14 (100.0)	13 (100.0)	177 (100.0)

() 内は構成比 (%)

25) 年齢構成別の訓練内容

表1-25 年齢構成別の訓練内容

	20~39	40~59	60~79	不明	計
日常生活の訓練 指導	8 (21.6)	14 (17.7)	8 (13.3)	0 (0.0)	30 (16.9)
コミュニケーション の訓練・指導	8 (21.6)	14 (17.7)	12 (20.0)	0 (0.0)	34 (19.2)
歩行訓練	1 (2.7)	4 (5.1)	2 (3.3)	0 (0.0)	7 (4.0)
作業訓練	8 (21.6)	22 (27.8)	16 (26.7)	1 (100.0)	47 (26.6)
職業準備訓練・職業 訓練	3 (8.1)	3 (3.8)	1 (1.7)	0 (0.0)	7 (4.0)
レクリエーション 活動	5 (13.5)	18 (22.8)	18 (30.0)	0 (0.0)	41 (23.2)
その他	4 (10.8)	4 (5.1)	3 (5.0)	0 (0.0)	11 (6.2)
計	37 (100.0)	79 (100.0)	60 (100.0)	1 (100.0)	177 (100.0)

26) 障害発生状況別の訓練内容

表1-26 障害発生状況別の訓練内容

	幼児（0 ～5歳）	6歳以 上にな って	初めに 聴覚に 障害を	初めに 視覚に 障害を	不 明	
日常生活の訓練 指導	4 (19.0)	2 (14.3)	15 (19.0)	0 (0.0)	9 (16.4)	30 (16.9)
コミュニケーション の訓練・指導	3 (14.3)	2 (14.3)	15 (19.0)	2 (25.0)	12 (21.8)	34 (19.2)
歩行訓練	1 (4.8)	1 (7.1)	4 (5.1)	1 (12.5)	0 (0.0)	7 (4.0)
作業訓練	3 (14.3)	4 (28.6)	22 (27.8)	2 (25.0)	16 (29.1)	47 (26.6)
職業準備訓練・職業 訓練	1 (4.8)	2 (14.3)	3 (3.8)	0 (0.0)	1 (1.8)	7 (4.0)
レクリエーション 活動	5 (23.8)	2 (14.3)	16 (20.3)	2 (25.0)	16 (29.1)	41 (23.2)
その他	4 (19.0)	1 (7.1)	4 (5.1)	1 (12.5)	1 (1.8)	11 (6.2)
計	21 (100.0)	14 (100.0)	79 (100.0)	8 (100.0)	55 (100.0)	177 (100.0)

表1-26-2 施設での具体的な訓練等の内容

訓 練	具体的な内容
日常生活の訓練・指導	整理整頓, 調理, 生活全般, 買い物, 洗濯, 排泄, 縫製, 余暇利用, 歯磨き, 機能訓練, 食事, 入浴
コミュニケーションの 訓練・指導	手話, 手書き文字, 点字, 墨字, 指文字, ひらがな, ブリスタ, 読話, レーズライター, 指点字, 絵のやりとり
歩行訓練	防御, 手引き, 夜間, 電子機器
作業訓練	箱組み立て, 箱折り, 縫製品作り, みとうし, 袋折り, 材料の分別, 花台磨き, 組み立て, パイプづめ, 竹細工, 園芸, 袋づめ, 数を数える, 烏小屋の管理, 電線解体, ビーズ作り
職業準備訓練・職業訓練	パン製造, クリーニング, 事務
レクリエーション活動	運動, 行事参加, 散歩, 手話, 木工, 陶芸, 水泳, 玉のれん, 縫製, 工作, 美術, スキルスクリーン, 卓球, 園芸, オセロ, マラソン, 菓子作り, 紙粘土, 音楽療法
その他	生活の援助, 食べ方, パソコン, 手芸, 紙粘土

各訓練項目別の記載された内容を転記した。

27) 主たるコミュニケーション手段の獲得した時期及び場所

表1-27 主たるコミュニケーション手段の獲得した時期及び場所

区 分		盲学校時代	ろう学校時代	家 庭	施 設	わからない	計
男	実数	4	15	6	3	9	37
		(10.8)	(40.5)	(16.2)	(8.1)	(24.3)	(100.0)
女	実数	2	9	1	7	6	25
		(8.0)	(36.0)	(4.0)	(28.0)	(24.0)	(100.0)
計	実数	6	24	7	10	15	62
		(9.7)	(38.7)	(11.3)	(16.1)	(24.2)	(100.0)

() 内は構成比 (%)

28) 得意なコミュニケーションは

表1-28 得意なコミュニケーション

項 目	男	女	計
音 声	9 (24.3)	7 (28.0)	16 (25.8)
指文字日本語50音式	3 (8.1)	0 (0.0)	3 (4.8)
手 話	8 (21.6)	13 (52.0)	21 (33.9)
手書き文字相手の掌等を書く	6 (16.2)	2 (8.0)	8 (12.9)
プリスタ	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (1.6)
筆談 点字または墨字	3 (8.1)	0 (0.0)	3 (4.8)
その他	7 (18.9)	3 (12.0)	10 (16.1)

() 内は構成比 (%)

29) 指導や援助状況の自由回答のまとめ（記載された内容を分類して掲載）

表 1-29-1 指導や援助において配慮していること

日課等を詳しく伝えること(情報保障)	9
コミュニケーションの機会を確保すること	5
健康管理と予防をすること	5
行動様式を定着させること	4
精神の安定をはかること	4
外出の機会を確保すること	3
障害受容をすること	3
意思の尊重をすること	3
余暇を有効に利用すること	2
生活リズムを定着させること	2
体力増進をはかること	1
合 計	41

表 1-29-2 指導や援助において、困っていること

情報を十分に理解されず、意思の疎通ができない	10
移動の介助者や職員が確保できない	2
表情や態度からしか意思をとれない	2
他者に依存することが多い	2
活動に参加してもらえるようにコミュニケーションをとる	1
施設変更	1
合 計	18

29) 指導や援助において、日頃配慮していることや困っていること等がありましたらば、ご記入して下さい。(自由回答の掲載)

全盲・全ろう者

<生活施設>

- ・意思疎通が困難なため、本人の意志が判断しにくく、適切なサポートがとりにくい。(男 23 歳)
- ・家庭内での生活や、施設生活が長いため、一般生活との隔たりが多くあること。(男 35 歳)
- ・本人の生活パターンを大事にしている。本人の意欲と向上心におしめない援助をしたい。コミュニケーションの理解力は体験を通して本人の力になるよう援助したい。(男 45 歳)
- ・昼夜逆転することのないよう日中は外気浴・散歩・手伝い(タオルたたみ)等に誘い、寝てしまわないように配慮している。大便の確認を手で行っている。そのため下着や身体に便が付着していることが多く困っている。(男 58 歳, 精神障害)
- ・日常生活全般において、声がけを要す。指示でなく、なるべく「～しませんか。」と、問いかけ、判断を任せる方向で考えている。(男 58 歳)
- ・日中、ベッド上で過ごすことが多いので、活動に参加してもらえようコミュニケーションをとっている。(男 61 歳)
- ・周囲に泥棒がいるとの思いが強く、部屋ではタンスなどに囲まれて休み、日中、施設内では、常時カバンに 9kg 程度の荷物を持って歩く。(男 66 歳)
- ・コミュニケーション法として、点字・手話・手書き文字を持っているが、語彙が少なく、会話が限られ、お互いの意志を十分に交換できない。(男 67 歳)
- ・コミュニケーションの拡大。(男性 67 歳)
- ・配慮は、76 歳と高齢のため無理にならないように日課に参加してもらう。困っていることは、言葉の意味・名前など知らないことも多いので、意思が伝わらない部分もあること。(男 76 歳)
- ・日常生活面では自立しているが、精神面で不安定なところがあるので、会話やふれあいを通して、精神安定をはかっている。(女 57 歳)
- ・無年金ということ、本人は知らず、日用品やおやつなどの要求があり、できるだけ聞き入れる。(女 58 歳)
- ・コミュニケーション方法は多く持っているのだが、言葉数が少なくコミュニケーションが限られてしまう。(女 62 歳)
- ・身辺面は、ほぼ自立しているため、本人からの要求があれば、趣味的なこと(裁縫、調理など)など一緒にする。(女 73 歳)

<更生施設>

- ・コミュニケーションの手段が、手書き文字だけなので理解できているのか不安になる時がある。具合の悪い時等、状態を把握するのが難しく、手書き文字も拒否されてしまい、互いに理解できず機嫌を損ねてしまうことがある。点字等も試みてはみたが、受け入れてもらうことはできなかった。コミュニケーションの獲得が必要である。(男 57 歳)
- ・細かい日課の変更等、詳しく伝えられない。(男 59 歳)

<作業施設>

- ・社会的で色々な希望を出しているが、それに答えてあげられない。本人が求めている情報を充分伝えられないでいる。(男 48 歳)
- ・人の話はあまり聞かず、一方的に話をする人が多いので相手の気持ちを引き寄せて話をしている。余暇時間の利用方法を考え中。(現在は主に紐にてカゴ作り)(男 63 歳)
- ・毎日の日課を朝礼で必ず伝達するようにしている。(男性、67 歳)
- ・歩行訓練の方法と導入について。見えないことからくる不安により自傷・他傷について。触手話の獲得。(女 31 歳)
- ・本人の気持ちもあるが、外出等取り組みきれずにいる。見えない障害を本人が受け止めきれずにいること。余暇の取り組みとして、何か興味を持ってもらいたいがこれといったものがない。(女 34 歳)

弱視・全ろう

<生活施設>

- ・糖尿病のため、食事や間食制限をしているが、本人に充分意味を伝えられない。(男 54 歳)
- ・コミュニケーションは手話を使うが、身振りも多く、本人を良く知っている人以外は、手話でのコミュニケーションはとりにくい。(男、? 歳)
- ・ローマ字式の指文字での会話が多いため、手話などもとり入れていき、弱視なのでなるべくいろんな物をたくさん見てもらうために外出を多くとっている。(女 49 歳)
- ・本人の生活リズムを大事にしている。協力を求められたりすると応じている。他に、こちらから出向いてお互いの趣味の話の交換など行っている。健康面で“予防”ということがうまく伝わるよう努めている。(女 64 歳)

<更生施設>

- ・自分の世界があり、援助者側が伝えたい意図や日々変化する生活の情報が十分に理解されない。(男 49 歳)

<作業施設>

- ・コミュニケーション訓練の時間及び人員の確保が厳しい。将来本人が全盲になった時の不安。(男 21 歳)
- ・夜間の歩行は一人では困難。施設は駅から遠いため、行動範囲が狭くなる。(男 30 歳)
- ・日常生活で他の人を考えずに行動するため苦情が多く言われるが、本人に伝えてもなかなか理解してもらうことが難しい。(男 48 歳)
- ・日課等、細かい点について、伝達する様に努めているが、勘違いや伝達不足にてトラブルが起きやすい。(男 59 歳)
- ・周りの状況をできる限り、伝えていくようにしている。(男 69 歳)
- ・糖尿病のために、毎日・毎食の食事摂取に気をつけている。血糖値安定のため、生活リズムに気をつける。排便の管理・尿の管理・インスリンの管理等。(女 51 歳)
- ・本人の訴えが掴めないことが多い。かわり持てても会話(意思の疎通)が難しい。(女 58 歳)

- ・本人が何か誤解し怒っている時、コミュニケーションを拒否されてしまい、誤解の解けないまま、本人が不快な思いをしてしまうことがある。(こちらからのコミュニケーション手段が手のひら書きのため、本人が手を出してくれないと会話ができない。)(女 60 歳)

全盲・難聴

<生活施設>

- ・精神安定に配慮している。(男 26 歳、精神遅滞)
- ・本人は視・聴覚障害と最重度の知的障害を持つ盲重複障害の方です。そのため、現在本人とのコミュニケーションは1日の流れに沿った生活そのものがコミュニケーションとなり、それ以外は今の所は不可能な状態にあります。職員としては本人の好きなことや日常生活を通して、表情や態度から意志を読み取れる様心がけています。(男 33 歳)
- ・食事に関し好き嫌いが多いため、水分補給・食事量など注意する。精神不安定な時期など観察しその都度対応する。(男 34 歳)
- ・排便時に洋式トイレに入りますが、便を済ませると必ず洋式トイレ便器内の水でチャプチャプと肛門を洗ったり手を洗う。不潔なので何度も指導しているのですが、ガンとして聞き入れず。また、真夏の暑い日でも、衣類を何枚も着込みます。(男 65 歳)
- ・人工透析を受けている方ですので、健康面に気をつけ(水分量、食事面、疲れないような配慮等)をしています。外出等は本人の体調の良い時に出かけ満足して帰ってこられます。しかし、本人のニーズ全部が通してあげられないのが残念です。(男性 66 歳)
- ・世間の出来事は、ラジオや点字出版物で入手しているため、入手先を広げていきたい。(男 69 歳)
- ・メンタル面が不安定なことが多いため、意志疎通が困難なことで、コミュニケーションがとりにくく、きめ細かなかわりが難しい。(女 32 歳)
- ・視覚障害(全盲)と重度の知的障害を併せていることもあり、コミュニケーション、援助者及び周囲との意志疎通が万全とは言い難い。認知の部分においてもパターンを崩すと受け入れられず、混乱して泣いて訴えることも多く、援助の際に本人の理解している行動パターンを把握して接するようにしている。また、睡眠リズムが一定せず、ともすると、昼夜逆転することもあり、基本的なリズムの定着を促すようにしているが難しい。(女 33 歳、知的障害)

<更生施設>

- ・人によって聞こえが悪いため困っている。(男 31 歳)
- ・補聴器を左耳にだけしていますが、続けてしていると耳の中がただれてくる時があり、補聴器が故障する時があって困っています。入浴後、補聴器をはめる時綿棒で拭いてからはめています。(女 56 歳)
- ・日課・行事などの情報が、本人に届いているかどうかを、確認するように努める。(女 68 歳)

<作業施設>

- ・情報保証。視覚障害者施設にてパソコン学習中。1泊2日(1週間に一度)で通っているが、送迎ボランティアが止められたため、現在は毎週通えない状態。(女 56 歳)
- ・整理・整頓ができないので声かけが必要。(女 59 歳)

弱視・難聴**<生活施設>**

- ・自己コントロールが難しいので、様々な場面で、こちらである程度、道筋を立てて示す(指示・規制)必要がある。そのため、職員と一緒に行動することになり、それ以外は、部屋に錠をかけて入っていることが多い。(男 24 歳)
- ・加齢にともない、足腰の劣えが目立つため、歩行に支障をきたし、生活面に影響が出ている。(男、65 歳)

<作業施設>

- ・結婚問題を通して、施設(老人)変更を考えている。(男性、69 歳)

その他**<生活施設>**

- ・本人の自尊心を大切にしている。(男性、68 歳)

<更生施設>

- ・園内の場所の把握、覚えることが難しく、繰り返し繰り返ししていくことを心がけています。が、周りの人も迷うことをわかって手伝ってあげたり協力してくれるので、他の人に頼ってしまうことも多いです。(女性、63 歳)

<作業施設>

- ・コミュニケーションを多くとりながら、周りの様子・変化が、伝わるようにしている。(男性、54 歳)

(4) 結果

1) 有効回答者数

有効回答者数は62名(89.0%)だった。

2) 調査対象者の属性

- ①性別は、男性37名、女性25名であった。
- ②年齢は、20～39歳が15名(男10名、女5名)、40～59歳が24名(男12名、女12名)、60～79歳が22名(男14名、女8名)、不明1名であった。

3) 盲ろう障害の状況

- ①感覚機能障害の状況は、全盲・全ろう27名、弱視・全ろう15名、全盲・難聴10名、弱視・難聴5名、その他5名であった。人工内耳の手術を受けた該当者は0名だった。
- ②他の障害も重複している者が5名いた。
- ③視覚障害の発生時期は、0～5歳が16名、6～19歳が12名、20～39歳が15名、40～59歳4名、60歳以上が0名、わからないが15名だった。
聴覚障害の発生時期は、0～5歳が38名、6～19歳が7名、20～39歳が3名、40～59歳が3名、60歳以上が0名、わからないが11名だった。
- ④視覚障害の主な原因は、網膜色素変性症24名、視神経萎縮5名、緑内障4名、先天性4名、眼球ろう3名、白内障3名、脳炎3名、網膜剥離3名であった。聴覚障害原因の主なものは、先天性15名、脳炎3名であった。障害の種類では、感音性20名、混合性5名であった。

4) コミュニケーションの方法

全盲・全ろう者の発信方法は、相手の手のひら等を書く(18名:67%)・手話(15名:56%)が多く、受信方法では、自分の手のひら等に指でひらがなで文字を書いてもらう(18名:67%)・手で触って手話を読み取る(12名:59%)が多かった。

弱視・全ろう者の発信方法では、筆談(10名:67%)・手話(9名:60%)・相手の手のひら等を書く(8名:53%)が多く、受信方法では、筆談(11名:73%)・手話を近くで見る(8名:53%)が多かった。

全盲・難聴者の発信方法は音声(7名:70%)が多く、受信方法も補聴器の使用に

よる音声（6名：60%）が多かった。

弱視・難聴者の発信方法は指文字（4名：80%）・手話（3名：60%）手のひら等に書く（3名：60%）・筆談（3名：60%）が多く、受信方法は筆談（4名：80%）・指文字を見る（4名：80%）が多かった。

コミュニケーション手段の獲得は、ろう学校時代24名、施設10名、家庭7名、盲学校時代6名、わからないが15名であった。

5) 外出形態と頻度

外出形態と頻度外出が単独で可能2名、慣れたところなら単独で可能4名、いつも誰かと一緒56名だった。外出頻度は、1ヶ月に1回以下24名、2～3回22名、4～5回8名、6回以上8名であった。

6) 受けている訓練

受けている訓練は、作業訓練47名、レクリエーション活動41名、コミュニケーションの訓練・指導34名、日常生活の訓練・指導30名、歩行訓練7名、職業準備訓練・職業訓練7名であった。

7) 自由回答

自由回答によると、盲ろうと他の障害（知的障害・精神障害）との重複の場合の処遇は非常に困難であった。全盲・全ろう者の意思の疎通は、特に難しいようであった。障害を受けた時期によって、コミュニケーションの手段と能力が大きく異なっていた。弱視・難聴者であっても、細やかなコミュニケーションが難しいために他の入所者とのコミュニケーションが不足したり、正しく理解されずに孤立してしまい入所施設での生活を送ることが難しい場合もあげられていた。

(5) 考察

盲ろう者のコミュニケーション手段としては、音声、指文字、手話、手のひら等への手書き、ブリスト、キードスピーチ、筆談、指点字等があるが、全盲・全ろう者のコミュニケーション手段は、発信・受信とも第1の手段が手のひら等に文字を書くという情報伝達速度として不利な手段を使用していた。また、第2の手段も手話であり、見えない場合にはこの方法も情報伝達速度に難点がある。より確実に早いコミュ

コミュニケーションが可能な指文字や指点字等の手段があまり活用されない理由について今後の研究が必要であると考えられる。

また、弱視・全ろう者の場合は、全体15名のうち、筆談使用者が10名、手話使用者が9名となっていた。この使い分けは、原則的にはもともとの障害が視覚障害の場合筆談を用い、聴覚障害の場合手話を用いているのであるが、手話使用者でも筆談を情報伝達手段としている場合がある。筆談は情報伝達速度では不利であり、なぜそれを活用しているのかということについても今後の調査が必要であると考えられる。

全盲・難聴者の場合、音声によるコミュニケーションが中心になっているのは、当然であるが、進行性の疾患が多いことを考えれば、これらの者に対するコミュニケーション訓練も検討されてよいと考えられる。

弱視・難聴者の場合は、筆談や手のひらに等を書く方法も活用されているが、視覚の活用も可能であるにもかかわらず、このような方法が使用されているのかについてさらに調査が必要であろう。

さらに、コミュニケーション方法が個別的で、例えば、指文字でも人によってサインが異なることもあり、この点がコミュニケーションの困難さをさらに大きなものとしていると考えられる。

コミュニケーションに福祉機器はほとんど活用されていなかった。また、人工内耳の使用者が0であった。これらの背景についてさらに調査をすすめる必要があるだろう。

外出形態をみると単独で外出可能な者は少数で、「いつも誰かと一緒」でなければ、外出できない者が56名(90%)であり、単独による外出の困難さが明らかになっている。コミュニケーションと外出というこれまで指摘されてきた援助ニーズについて再確認された結果となった。

どちらの障害が先に発生するかについては、聴覚障害が発生した後に視覚に障害が発生した者が26名(42%)であり、視覚障害が発生してから聴覚障害が発生した者5名(8%)を大きく上回っており、これもこれまでの調査結果と一致するものであった。

IV. 資料

施設調査用紙

調査の項目

1. 貴施設において、盲ろうの人はいますか。または、いましたか。(はい いいえ)
2. 1で「はい」の場合
 - ①何人いますか。または、いましたか。(現在 人)(過去 人)
 - ②盲ろうに併せて他の障害がある人は何名程度いますか。
 - ③どのようなプログラムを提供しましたか。あるいは、提供していますか。
名称と内容(取り組みについて)
3. 1で「いいえ」の場合
受け入れは可能でしょうか。(可能 不可能 検討中)

盲ろう者の状況調査（施設利用）

I D	
性別	男 女
年齢	歳

該当する項目に○を又は記述をお願いします。

1 感覚機能障害について、お答えください。

視覚障害		全盲（先天性・中途）
		弱視（先天性・中途）
		その他（ ）

聴覚障害		全ろう（先天性・中途）
		難聴（先天性・中途）
		その他（ ）

2 障害の原因（疾患名など）について、お答えください。

視覚	
聴覚	
その他	

3 障害の発生時期について、お答えください。

視覚障害	歳ごろ
聴覚障害	歳ごろ

4 人工内耳の手術を受けたことがありますか。（有・無）

5 コミュニケーションの方法について、お伺いします。

A 話すときの方法は何ですか。（複数回答可）

	1 音声
	2 指文字（日本語50音式）
	3 指文字（ローマ字式）
	4 手話
	5 手書き文字（相手の手のひら等に文字を書く）

	6 指点字
	7 ブリスタ
	8 発音は明瞭
	9 発音は不明瞭
	10 キュードスピーチ
	11 筆談 (点字 ・ 墨字)
	12 その他 ()

B 話を聞くときの方法は何ですか。(複数回答可)

	1 音声
	2 読話
	3 指点字 (パーキンス型)
	4 指点字 (ライトプレーラー型)
	5 指文字 (日本語 50 音式) に触れる
	6 指文字 (日本語 50 音式) を見る
	7 指文字 (ローマ字式) に触れる
	8 指文字 (ローマ字式) を見る
	9 手話に触れる
	10 手話を近くで見る
	11 手話を遠くで見る
	12 手書き文字 (自分の手のひらにひらがなで書いてもらう)
	13 手書き文字 (自分の手のひらにカタカナで書いてもらう)
	14 手書き文字 (自分の手のひらに漢字かな交じりで書いてもらう)
	15 キュードスピーチ
	16 筆談 (点字・墨字を紙に書いてもらう)
	17 補聴器使用
	18 ブリスタ
	19 その他 ()

C 得意なコミュニケーション方法は何ですか。

(上記の番号から記入してください。)

話すとき	
話を聞くととき	

D コミュニケーション手段をどこで獲得しましたか。(記述式)

--

6 外出はどうしていますか。

1	外出はほとんど一人でできる
2	慣れた場所であれば一人でできる
3	日中なら一人でできる
4	外出はいつも誰かと一緒
5	その他 ()

7 何回程度外出していますか。

1日		回程度
1週間		回程度
1ヶ月間		回程度
1年間		回程度

8 現在利用している施設ではどのような訓練等をしていますか。

	項目	具体的な内容(記述式)
1	日常生活の訓練・指導	
2	コミュニケーションの訓練・指導	
3	歩行訓練	
4	作業訓練	
5	職業準備訓練・職業訓練	
6	レクリエーション活動	
7	その他	

9 指導や援助において、日頃配慮していることや困っていること等ありましたら、ご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。

第4章 盲ろう者の事例報告

目次

第1節 施設入所者の事例

第2節 特徴のある施設入所者の事例

1. 対象事例 ①
2. 対象事例 ②
3. 対象事例 ③
4. 対象事例 ①～③の全体考察
5. 今後の課題

第3節 在宅重度盲ろう障害者の事例

1. 対象事例 (K. K君)
2. 在宅重度盲ろう重複障害者への支援
3. 今後の課題

第4章 盲ろう者の事例報告

第1節 施設入所者の事例

1. 事例の概要

国立身体障害者リハビリテーションセンターに入所し、訓練を終了したあるいは訓練中の盲ろう障害者13事例の概要を、表1-①～表1-③に一覧表としてまとめた。

施設入所者の事例報告

I. 事例の概要

国立身体障害者リハビリテーションセンターに入所し、訓練を終了したあるいは訓練中の盲聾重複障害者13事例の概要を表1-①～表1-③に一覧表としてまとめた。

表1-①

事例	A	B	C
入所(障害別)	聴覚	聴覚	聴覚
性別	男	男	男
年齢	38歳	38歳	32歳
入所時年齢	18歳	18歳	18歳
障害名・等級	聴覚・言語障害 2級 両側感音性難聴 視覚障害 等級記載無 網膜色素変性症 視力 R 0.2 L 0.5 視野 5度 聴覚・視覚障害 2級	聴覚・言語障害 2級 混合性難聴 視覚障害 等級記載無 網膜色素変性症、網膜剥離 視力 R 0 L 0.1 視野 5度 聴覚・視覚障害 2級	聴覚・言語障害 2級 両側感音性難聴 視覚障害 5級 網膜色素変性症 視力 R 0.4 L 0.3 視野 5度 聴覚・視覚障害 2級
受障時年齢	聴覚障害 0歳 視覚障害 13歳	0歳 7歳	0歳 16歳
障害歴・入所時聴覚障害 視覚障害	18年 5年	18年 4年	18年 2年
コミュニケーション方法	手話・筆談	手話・触手話・筆談	手話・指文字・点字
補助具等	補聴器	補聴器	
教育歴	小学校 中学校 高校	聾 聾 聾	聾 聾 聾
職歴の状況 転職、職種等	職歴無	職歴無	職歴無
家族構成(入所時) 家族歴(障害) キーパーソン 特記事項	父、母、姉、妹	父、母 父(難聴)	父、母、弟、弟
国入り入所期間	1年6ヶ月	1年11ヶ月	1年8ヶ月
訓練状況 訓練経過 技術面(帰結想定) 態度面(特徴) 実習経験	クリーニング(職能)修了 技術面では良好であるが機 敏さを欠く。プレス作業を拵が る。集団指導での習得は可能。 実習 19日間	クリーニング(職能) →理療教育課程修了 クリーニングでは視野狭窄 のため限界があり、就労が 困難なレベル	クリーニング(職能)修了 機械、電気、彫金、事務 機械、電気、彫金、事務 手工芸等で評価をうけた 後クリーニングに決定 実習 20日間
アセスメント	WAIS PIQ94 算数 小学3年 読書力 小学2年	WAIS PIQ91 算数 小学4年 読書力 小学4年	WAIS PIQ84 算数 小学3年 読書力 小学2年
社会復帰状況	Tクリーニング協同組合(11年) →クリーニング会社(現在) 自分で探した会社 職場内の照明が暗く改善も なされないのので退社	治療院を開業 (あんま、はり、灸) 地元の業者から患者を引き 抜かれたが、挨拶回り等で 信用を取り戻し成功した 母親の協力が大きい	Tクリーニング協同組合 →無職 トラブルが多かった 空手を習っていたので、け りの格好をしたところ、近く にいた視覚障害者にあたり 暴力を振るったとして会社 を辞めさせられた。
備考	白状を持たないで夜の買い物 等に行き、車のクラクションが聞こ えず車とぶつかり、殴られて会 社に訴えられたために辞めた 自分で次の会社を見つけ就職 白状を持つ習慣が必要であっ た		

表1-②

D	E	F	G **	H *
聴覚	聴覚	聴覚	聴覚	聴覚
男	女	男	男	男
34歳	42歳	27歳	30歳	20歳
20歳	30歳	18歳	28歳	18歳
聴覚・言語障害 2級 両側感音性難聴 視覚障害 等級記載無 右角膜炎 視力 R 0.5 L 0.8	聴覚・言語障害 2級 両側感音性難聴 視覚障害 手帳無 網膜色素変性症、視神経萎縮 視力 R 0.03 L 0.04	聴覚・言語障害 2級 両側感音性難聴 視覚障害 手帳無 網膜色素変性症 (入所後に診断) 視力 R 0.8 L 0.7	聴覚・言語障害 2級 両側神経性難聴 視覚障害 4級 網膜色素変性症 視力 R 0.5 L 0.3 視野 10度以内	聴覚・言語障害 2級 両側感音性難聴 視覚障害 3級 視野狭窄、損失率95% 視力 R 0.1 L 0.1 視野 10度
聴覚・視覚・肢体障害2級 先天性筋緊張低下症	聴覚・視覚・肢体障害 手帳無 本態性振戦	聴覚・視覚障害 手帳無	聴覚・視覚障害 2級	聴覚・視覚障害 1級
7歳	12歳	0歳	2歳	0歳
0歳	20歳	18歳	14歳	10歳
13年	18年	18年	26年	18年
20年	10年	0年	14年	8年
手話・指文字・筆談・口話	手話・触手話・指文字・口話	手話・指文字	手話・指文字・筆談	手話・指文字・空書 キョウトスピーチ・筆談・口話
補聴器	補聴器	補聴器	補聴器	補聴器・拡大読書器
聾 聾 聾	普 普 普	聾 聾 聾	聾 聾 聾	普 普 聾
職歴無	職歴有 美容インターン→和文タイフ(オペレーター) 最長3年継続勤務	職歴無	職歴有 木工 7年 リストラで退社	職歴無
父、母、姉	父、母、妹、弟、妹 弟(聴覚障害)、 末妹(聴覚障害+白内障)	父、母、兄、妹 母(手話通訳者)	父、母、妹、妹 母 母への依存傾向が強く 母も子離れしていない	父、母、妹 妹(同障害) 父 6歳時兄が事故死
1年4ヶ月	1年3ヶ月	1年2ヶ月	8ヶ月	1年4ヶ月
1ワーク クリーニング(職能)修了 機械製図、OA事務を希望 したが評価の結果不合格 集団指導での習得は可能 実習 25日間、8日間	一般事務科(職リハ)修了	塗装科(職リハ)修了 理解良好で優秀	クリーニング(職能) 歩行、国語、スポーツ 福祉就労想定、プレスに 恐怖感強く進歩が遅い 自発的な取り組みは難 実習 5日間 6日間	クリーニング(職能) コミュニケーション、発語 歩行、国語、スポーツ 福祉就労想定、仕上がり にムラがあり、協調性低い 実習 10日間
WAIS PIQ114 算数 小学4年レベル 読書力 中学3年レベル	WAIS-R PIQ95 VIQ96 算数学力 小学5年 読書力 中学3年	WAIS-R PIQ94 算数学力 小学5年 読書力 小学6年	WAIS-R PIQ88 算数学力 小学2年 読書力 小学1年 教示は繰り返しが必要 不安傾向有	WAIS-R PIQ66 算数学力 小学2年 読書力 小学4年 教示の理解は筆談を使用 意志交換や集団参加が 課題。向上心は高い。
クリーニングプラザ →R株式会社 コンピューター関係の仕事で 在宅就労 電車通勤の際、乗り降り時 客に押されて危険なため 通勤が困難になり在宅就 労となった	M建設株式会社(事務関係)	一般就職(塗装関係) →S自動車工業 →料理専門学校 →調理関係の仕事(パート)	家庭復帰→入所前の聾 重複授産施設に戻る 十分な仕上がりで訓練を 修了したわけではなく サービスが充分でなかつた が良い方向で就労 できている	当センター入所中 訓練では簡易な作業の習 得は可能、複雑なことはパ ニックになる 付きっきりで 繰り返し経験させることで 習得は可能
落ち着いてじっくり取り組む 姿勢があり、着実に訓練成 果があがった		目のことが心配で悩んで いた 自律神経発作有	反響手話の使用 家庭への依存心が強い 目の進行で不安が強く 同じ盲聾者に眼に関する 質問をよくしていた	集団生活適応面を中心 に指導中 共同作業を通して協調性を 伸ばすことや挨拶などの日 常生活面で指導中であるが 少しずつ成長している